

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(146)

(世界秩序)
第一次世界大戦の勃発から100年、第二次世界大戦の勃発から73年、世界の政治秩序は揺れ動いている。超大国であった米国の力が少しずつ衰え始めており、新興国の大国として力を伸ばしてきた中国もいろいろな問題を抱え、その力にプレッシャーがかかっている。これにロシア、フランス、イギリスなど第二次世界大戦の戦勝国の力も陰りが見えてきている。

日本とドイツは世界の経済をけん引している強力なメンバーであることは事実である。3月14日の産経新聞に柔道と異文化交流の記事が掲載されている。盛岡南部藩出身の国連次長として明治の時代に世界のかけ橋を務めた新渡戸稲造博士が紹介した武士道とキリスト教文化との共通点が話題になったという記事である。

一般的に、西欧のキリスト教文化は攻めに、日本の武道文化は受けに妙味があるときれている。東京大学名誉教授・清水博の柳生新陰流の敵の攻撃を受けて返す世界を科学

の世界の「場の理論」の立場からの説明は、異文化交流の妙を創造することつながってくる。柳生新陰流の哲理を受け止めて、これを国際政治の場に用いて、世界秩序の創造に役立てることは一考する価値があると思う。

和服を着て茶室に入ると気持ちが引き締まりますね！
返句
春裕 炭火や茶室 ひきしまる

母に似る
(津波)
長野茂子
海向いて 椿の中の山の神

化をつくらねばならぬと思うよ
かつたか 小高い森の中にある三十三観音巡礼の札所も津波に流されたところもあるなあ！
けいいち 天災は忘れたころに襲ってくる

(とべら俳句会 2月)
(雪)
伊藤小里
杉山の 重機の音や雪の中
降りつもる 仮設住まいの 雪払う
雪かきは大仕事ですね！
返句
雪重し 仮設の屋根のたわむ音

(追憶)
長野 好
三陸の 香りはんのもり若布和え
われの声 亡母に似てると一月かな
料理の味付けも地声も亡き母に似てきているなあ！
返句
若布和え 味も地声も

(民話)
吉田ミチ子
幼子の ものまね山の笑ひけり
浜うらら 神の名をもつ 小舟かな
返句
民話する 野山も海も春うらら
(3・11を語りつなぐ)
ひでひこ 気仙地方はいくとも津波に襲われているが、海を恐れ、海と暮らす生活文
ひでひこ 日本文化には忍耐強いところがあるが、これは忘れやすいことと関係があると思うなあ！
かつたか 隣の国の中国や韓国は恨み辛みを忘れないでしっかりと生きてきますからねえ！
けいいち 日本人は熱しやすく冷めやすいともいわれておりますね！
ひでひこ 3・11の大震災をどのように語りつなぐか、これが気仙地方の大きな挑戦になると思うよ
けいいち これを世界に向けて発信しなければいけませんね！